

事業（会務）報告

1. 会員の状況

2021年3月1日現在の社員（会員）総数は、9,860名で会員の種別・増減内訳は下記のとおりである。

注：（ ）内は、2020年3月1日現在の会員数を表す。

会員総数	9,860名	(9,869名)	-9名
種別内訳：			
一般会員	8,309名	(8,347名)	-38名
評議員	1,002名	(997名)	+5名
名誉会員	67名	(65名)	[国内40名(38名) 国外27名(27名)]
功労会員	188名	(181名)	+7名
購読会員	294名	(279名)	+15名

年間会員増減：

(2020年3月1日～2021年2月28日)

● 新入会	367名	(370名)	-3名
● 再入会	10名	(1名)	+9名
△ 退会者	388名	(429名)	-41名

(定款第9条第1号希望退会者 249名，同条第2号による退会者 139名)

2. 2020年度事業報告

1) 総会・学術集会

第64回日本リウマチ学会総会・学術集会

2020年8月17日 ～ 9月15日 WEB開催 会長 石黒 直樹

2) 支部学術集会

第30回北海道・東北支部集会	2月	13,14日	WEB開催	会長	島田 洋一
第31回関東支部集会		1年延期		会長	門野 夕峰
第32回中部支部集会		1年延期		会長	小川 法良
第30回近畿支部集会		開催中止		会長	橋本 淳
第31回中国・四国支部集会	12月	4～13日	WEB開催	会長	荻野 浩
第59回九州・沖縄支部集会		開催中止		会長	井田 弘明
第60回九州・沖縄支部集会		開催中止		会長	中島 康晴

3) 理事会

2020 年度定例理事会を 4 回開催した。主要審議事項は次のとおり。

第 1 回理事会（6 月 14 日日曜）

定例評議員会・総会承認事項の審議（事業報告、決算・監査報告、予算審議、名誉会員・功労会員・評議員の選任、第 67 回学会長選出）、第 64 回学術集会 WEB 開催の実施概要、COVID-19 に伴う支部集会・講習会などの中止または延期、リウマチ性疾患患者に生じた COVID-19 に関する研究、ノバルティスファーマ研究助成への申請、強直性脊椎炎・脊椎関節炎の治療薬手引きの作成、新理事会および特定委員会の COI 申告書の審査結果、理事選挙管理委員会の設置、2020 年度アレルギー情報センター事業、全例市販後調査のためのウパダシチニブ適正使用ガイド等

第 2 回理事会（8 月 4 日火曜）

第 64 回学術集会 WEB 開催の準備状況、第 65 回学術集会予算およびプログラム、理事選挙実施概要、MR/MRCR の出版社変更、教育施設（新規・継続）の認定、専門医試験の実施方法、膠原病妊娠登録小委員会の名称変更、キャッスルマン症候群ガイドライン、Collaboration Grant、混合性結合組織病（MCTD）診療ガイドライン 2020、免疫学会からの提案、APLAR2020 について等

第 3 回理事会（10 月 17 日土曜）

第 64 回学術集会の結果と中間会計報告、第 65 回学術集会予算およびプログラム、新専門医制度の計画、専門医認定日と試験のスケジュール、JCR-EULAR 若手リウマチ医トレーニングプログラム/国際育成セミナー、2020 年度登録ソノグラフィアーの承認、フィルゴチニブの PMS 協力依頼、若年女性関節リウマチ患者の医療費の公費負担に関する要望、PMDA との人事交流、APLAR2020 について等

第 4 回理事会（1 月 31 日日曜）

第 64 回学術集会の会計報告、第 65 回学術集会（予算/プログラム/ハイブリッド開催詳細）、第 68 回（2024 年度）学会長推薦、2020 年度指導医（新規・更新）の認定/新専門医制度/細則の改定/教育施設（新規・更新）申請、2020 年度専門医（更新）の認定/CBT 試験・追試験の実施、2020 年度決算及び 2021 年度予算案、新名誉会員/新功労会員/新評議員の選出、次世代基礎研究推進プログラム研究助成選出者、JCR2021 ICW Excellent Abstract Award 受賞者、男女若手共同参画奨励賞の創設、若年性特発性関節炎カナキマブ治療の理論と実際の出版、臨床研究トレーニング合宿/PMDA との人事交流モデル、早期 RA 診断研究推進プログラム助成金、RA 診療ガイドライン 2020、第 95 回日本整形外科学会学術総会プログラムアンケート、新型コロナウイルスワクチンの副作用の調査、強皮症皮膚科潰瘍に対する低出力衝撃波療法の保険収載、全例市販後調査のためのフィルゴチニブ使用ガイド、学術集会運営委託業者の選定および開催会場、お困りごとチェックシートの著作権譲受、APLAR2021 について

4) 学会誌

- (1) 学会誌 Modern Rheumatology (MR)を年6回定期刊行、およびオンライン版 MR Supplement (学術集会英文抄録集) を年1回刊行した。
- (2) 編集委員10名を含む Transmitting Editor 合計32名にて電子投稿査読システム Editorial Manager を活用し、投稿論文の公正かつ速やかな査読行程に努め、掲載論文の質の向上に努めた。
- (3) 2019年の Impact Factor (IF) は2.113, 5年 IF は1.942であった。
- (4) Modern Rheumatology Case Reports (MRCR)は2020年7月に4-2号, 2021年1月に5-1号を発行, それぞれ30編, 35編の論文を掲載し, 創刊からこれまでに200編以上の論文を出版している。また2020年7月にMEDLINE 収載審査を通過し, 2020年1月号 Vol. 4-1 掲載論文から PubMed/MEDLINE に収載されている。
- (5) 出版社の移行準備を進めた。
 - ・ 2021年末で Taylor & Francis との契約が更新となるが, これまでの様々な問題から現出版社との契約終了を検討し, 理事会での承認を得た。
 - ・ MRCR 編集委員会と共に, 現出版社を含む3社より見積を取り, 2022年からの出版社選定を行った。2022年からの出版契約委託先として Oxford University Press を選択する事で理事会の承認を得た。
 - ・ 2021年末で出版契約を終了する事を Taylor & Francis に通知し, 2022年からの出版契約締結に向け, 契約書の検討をしている。

5) 専門医制度

- (1) サブスペシャリティ領域専門医審査のためのレビューシートを日本内科学会を通じて日本専門医機構へ提出し, 膠原病・リウマチ領域は, サブスペシャリティ領域審査協議会から日本専門医機構に「機構認定を推進するサブスペシャリティ領域」の一つとして承認された。また連動研修開始後, 速やかに研修記録を登録できるよう J-OSLER を導入した。なお新専門医制度によるサブスペシャリティの研修は2022年4月から開始される。
- (2) 2020年度認定の教育施設として, 新規26施設, 更新176施設を認定した。この結果, 2020年9月1日時点での日本リウマチ学会認定教育施設は602施設(前年比+6)となった。
- (3) 2021年1月に予定していた第34回リウマチ専門医資格認定試験は, COVID-19の影響を鑑み6月に延期し, さらに試験方法を Computer Based Training (CBT) 方式に変更して実施することとした。
- (4) 2021年3月1日付けで 専門医・指導医の資格更新の認定を行った。リウマチ専門医は4,883名(前年比-3名), 指導医は1,854名(同+104名)である。特に指導医は2016年度の規則改定以降着実に増加している。
- (5) リウマチ専門医研修カリキュラムは, 作成から10年経過していることから項目の内容を含め追記と変更を行った。
- (6) 新専門医制度による認定教育施設は5施設が新たに認定され, 計293施設となった。

6) 国際化の推進と若手の育成

- (1) 国際シンポジウムは海外演者の講演をキャンセルし日本人演者のみのセッションとした。
- (2) 国際コンカレントワークショップは、海外演者の口演はキャンセルとなったが、Basic/Clinical 関係なく内容別にセッションを振分けて開催した。
- (3) 64 回学術集会において「JCR 2020 Travel Award」を募集した。応募（賞審査対象演題）は 8 カ国（地域）30 名から 41 演題、受賞者は 6 カ国（地域）18 名から 18 演題を予定していたが、学術集会の延期および Web 開催に伴い Award も中止とした。
- (4) JCR 会員を対象とした国際ワークショップ優秀演題賞（ICW Excellent Abstract Award）は 114 演題から 31 題を選出した。
- (5) 「JCR-EULAR 若手リウマチ医トレーニングプログラム 2020」を企画し、長期プログラム 1 名を選出したが、渡航制限による辞退により該当者なしとなった。

7) 教育研修会等の開催

- (1) 全国規模の教育研修会として、8 月 17～31 日の間、アニュアルコースレクチャーをオンデマンドで開催し、12 月 6 日に全国中央教育研修会を WEB で開催した。
- (2) 第 7 回ベーシックリサーチカンファレンスを 10 月 23 日(金)、24 日(土)に WEB で開催した。カンファレンスには 219 名が視聴し、特別講演や教育講演のほか、基礎研究推進委員会の若手サブコミッティである「J-STAR-BR」主体で企画した「J-STAR セッション」を新たに設けた。特別講演には柳沢正史先生と上野英樹先生という日本が誇るトップサイエンティストの先生をお招きし、教育講演では基礎研究推進委員会委員による講演を行った。
- (3) 関節超音波講習会は全て中止となったが、本年度新たな登録ソノグラファーとして 43 名を登録し、156 名の登録更新を行った。
- (4) 「2018 年度 GSK 医学教育事業助成」による「AI 技術が切り拓く新たなリウマチ学に向けた教育シンポジウム」を 9 月 17 日と 1 月 24 日にそれぞれ WEB で開催した。

8) 研究助成事業

- (1) 厚生労働省より「アレルギー情報センター事業」の付託を受け、地域住民等への正しいリウマチ性疾患の知識の普及と啓発を行い、相談体制の確保を図ることを目的に、保健、福祉関係者および医療従事者と対象とした「リウマチ相談員養成研修会」を 12 月 6 日に WEB で開催した。
- (2) Novartis Pharma Grants for Basic Research 2020 の助成により、リウマチ学、および関連する生命医科学の新展開を切り拓く次世代のリーダーに、その研究の発展を促すことを目的とする「JCR 次世代基礎研究推進プログラム研究助成」を募集し、応募された 50 の研究課題から 8 題を選出し助成金を支弁した。

9) COVID-19 に対する対応

- (1) 2 月 7 日、堀内孝彦副理事長を委員長とする対策本部を設置した。
- (2) 2 月 14 日、厚生労働省難病対策課からの要請を受け、学会ホームページに「新型コロナウイルス感染症関連情報」を掲載した。同時に免疫抑制薬、生物

学的製剤、抗リウマチ薬を服用されている患者向け情報も掲載した。

- (3) 3月10日、ホームページに掲載している情報をQ&A形式にあらため、薬剤使用に関するエビデンス情報を適宜掲載した。
- (4) 5月21日、COVID-19を生じたリウマチ性疾患患者を対象に臨床情報を収集してデータベース化し、病態、重症化リスク因子、予後因子などについて観察研究を行うことを目的に「リウマチ性疾患患者に生じたCOVID-19に関する研究」を開始した。
- (5) 1月20日 COVID-19 ワクチンに関する情報を掲載した。
- (6) 2月15日 「COVID-19 ワクチン接種に関するJCRの見解」を掲載した。

10) COVID-19の2020年度事業計画への影響

(1) 中止となった事業

第59回および第60回九州・沖縄支部学術集会、第30回近畿支部学術集会、関節超音波初級講習会、国際育成セミナー、臨床研究トレーニング合宿

(2) 延期となった事業

第64回学術集会、第32回中部支部学術集会、第31回関東支部学術集会、2020年度リウマチ専門医資格認定試験

(3) WEB開催となった事業

第64回学術集会、アニュアルコースレクチャー、AI教育シンポジウム、第31回中国・四国支部学術集会、第30回北海道・東北支部学術集会、

3. 2021年度事業案

1) 総会・学術集会

- (1) 竹内勤会長のもと、2021年4月26日(月)～28日(水)に第65回日本リウマチ学会総会・学術集会をハイブリッドで開催する。
- (2) 第66回日本リウマチ学会総会・学術集会(2022年4月25日～27日、パシフィコ横浜ノース)の準備を田中栄会長のもとで進める。

2) JCR学会誌

- (1) MR論文の質の向上と引用の増加を図り、更なる国際的展開を進める。
- (2) 質の高い出版を維持し年6号発行する。
- (3) 英文抄録集は学術集会の演題登録時に英文抄録を義務付け、MR Supplementとして年1号をオンラインPDFとして発行する。
- (4) 国際学会にてMRおよびMRCRのプロモーション活動を精力的に行い、欧米からの投稿数増加を促す。
- (5) MRCRはPubMed/MEDLINEへの収載を目指し、インパクトファクターの早期取得に向けてジャーナル内容を充実させる。
- (6) 出版社の変更に伴う電子査読システムのデータ移行等を速やかに行い、投稿査読工程を安定的に提供する。

3) 専門医制度

- (1) 専門医制度委員会が恒常的に行ってきた指導医の新規認定・資格更新業務、教育

研修会の認定業務を引き続き実施する。

- (2) 新専門医制度による研修開始に向け、機構が示す「専門医制度整備基準」に則った研修カリキュラムを整備し、J-OSLER による研修記録を開始する。また日本内科学会、日本整形外科学会および日本小児科学会の基本領域、さらには内科系 subspecialty 15 学会と情報の共有と連携を推進していく。
- (3) 延期となった 2020 年度専門医資格認定試験を 2021 年 6 月 26 日(日)に CBT 方式で実施する。

4) 国際化の推進と若手の育成

- (1) 一層の国際化推進のため、学術集会での英語セッション枠を増やしていく。
- (2) JCR 2021 がハイブリッド開催となったことに伴い、Travel Award の名称を「Overseas Award」へと変更し、海外の若手研究者(45 歳未満) 上限 25 名をを第 65 回学術集会に招待する。受賞者のプレゼンテーションは国際コンカレントワークショップで行う。
- (3) 2021 年度 JCR-EULAR 若手リウマチ医トレーニングプログラムの募集を行う。
- (4) 国際的に活躍できる若手リウマチ学研究者を育成するための国際育成セミナーを開催する。
- (5) APLAR 2021 京都大会に協力するとともに、演題投稿した JCR 会員を対象にトラベルグラントを支弁する。

5) その他

- (1) AI 教育の推進を目指し、3 年目となる「AI 技術が切り拓く新たなリウマチ学に向けた教育シンポジウム」を開催する。
- (2) 学術集会および各支部集会において臨床研究に関するリテラシー向上、臨床研究を担う人材育成を目的としたレクチャーを行う。また第 2 回臨床研究トレーニング合宿を実施する。
- (3) 厚生労働省のリウマチ対策事業として、リウマチ相談員育成事業を継続して行う。
- (4) 「リウマチ性疾患患者に生じた COVID-19 に関する研究」を進めるとともに、「COVID-19 ワクチン調査対策委員会」を立ちげ、原疾患の増悪などリウマチ性疾患特有の副反応の有無を調査する。